

番 号	氏 名	抱 負
26	梁川 範幸	私は会員数が一番多い広域な関東部会に所属しています。CT撮影技術学の向上と発展を目指した関東部会CT研究会(CTGUM)を立ち上げ代表として10年務めました。広域活動であるため統率力が重要であり士気を高め合いながら継続的な座学や実習型のセミナーを開催し成果を得ています。一方、本会の放射線撮影分科会委員として放射線撮影技術学の最先端な話題を提供し会員の学術研鑽と研究心向上に寄与してきたと思います。分科会長の立場で理事会に出席させていただき本学会の方針とした国際化を目の当たりにしました。この国際化をキーワードとした本学会事業の達成やさらなる発展のために英語が苦手な私ですが少しでもお役に立ちたいと思います。学会は会員のための組織です。数々の活動を通じて多くの新入会員が集まり、共に放射線技術学の研鑽ができる日本放射線技術学会にするために浅学非才の身ではありますが理事に立候補する決意をしました。
27	市川 勝弘	学会活動の大きな柱の一つは、学術論文誌刊行と、その中での優れた研究成果の発信です。本学会は会員数も多く、学術大会では多くの演題(春秋合わせて1000演題程度)が発表されます。しかし、これに対して論文数は、英文誌を合わせて年間100～120編、その中で原著は50演題程度となっており、決して十分とは言えません(2013年)。この状況の改善により学会はより発展すると考えますので、理事となりました暁には、私の豊富な臨床経験(大学病院20年)と大学教育経験(12年)を生かし、論文投稿数増加のために、研究指導環境が不十分な会員のための研究方法と論文執筆の初心者講座などを紙面や学術大会で繰り広げます。また科学研究費申請や英語プレゼンに対しても、臨床現場の環境を考慮した手法の講座を開設します。任期内の成果には敏感であるべきと考えますので、会員意見のフィードバックを重視しつつ会務に貢献する決意です。
28	根岸 徹	私は平成7年度より20年間にわたり学術交流委員会標準化小委員会X線発生装置・機械装置班長および班員を務めてまいりました。その中でいくつかのJIS原案作成に携わり、放射線機器の安全や標準化について研鑽を積んでまいりました。そして平成23年度から計測分科会委員、平成25年度から計測分科会会長を任命され、医療被ばく測定セミナーで使用する叢書(25)「医療被ばく測定テキスト」の改訂を行い、より多くの会員の方々に愛用して頂ける実用書となったことと思われまふ。さらに、東京都江戸川区で開催された第40回秋季学術大会では実行委員長として得た経験を活かし、平成28年度に開催される第72回総会学術大会の実行委員長として多くの企画を準備しているところです。僅かではございますがこのような経験と皆様の情熱とアイデアを融合させて頂き、本邦の放射線技術学の益々の発展に寄与できないかと考え立候補させて頂きました。
29	五十嵐 隆元	放射線防護分科会委員を3期6年務め、その後放射線防護分科会長として2期4年目に入っており、併任している学術委員・広報委員も2期4年目に入っています。この間で福島原発事故に関する情報提供や市民の不安への対応等を行ってまいりました。放射線防護からの視点を学会運営に反映させるべく、そして会員の多くがそうである市中の一般病院に勤務する診療放射線技師としての視点もあわせて反映させていければと考えております。
30	五味 勉	